

試験研究（中間）評価整理表

意見整理表2(中間評価)

試験研究機関名 ハイテクプラザ

所管グループ 産業創出グループ

整理番号	施策目標等		試験・研究課題名	研究目的	研究概要	試験研究始期・終期		評価結果	外部評価アドバイザーコメント
	施策目標	研究課題分類				始期	終期		
1	新事業の創出	地域活性化共同研究事業	次世代プラスチックの製造技術の開発	プラスチック中に少量のクレイを分散させた高機能性ポリマーナノコンポジット材料を開発し、ナノコンポジットに関する混練技術・ナノ構造評価技術を確立する。	各種前処理を行いクレイの層間隔を大きくしてポリプロピレン樹脂を混練りし、クレイの分散と層間隔の大きさを確認しながら成形し、機械特性、動的粘弾性等の測定・評価を行う。	平成14	平成16	C	・達成値と目標値のずれが大きいか？、ニーズがないならくでもしかたがない。 ・混練技術によるナノコンポジット材料創生は挑戦的な課題であると思うが、評価技術の確立及び市場調査の実施が望まれる。
2	新事業の創出	地域活性化共同研究事業	スーパー繊維を活用した産業資材の開発	産業資材分野での炭素繊維の活用を図るため、現在の繊維強化複合材料の欠点を補う炭素繊維を用いた産業資材の開発とその加工技術を確立する。	炭素繊維を用いた織物製織技術を開発し、3次元織物の試作を目指す。次に炭素繊維の織物を所定の厚さまで積層し、積層材料縫合機で地糸切れのない3次元織物を形成する。	平成14	平成16	A	・製品化の目的が立ってよかった。 ・炭素繊維織物積層縫合技術は大きな知財となる可能性があり、航空機構造用材料としての使用も想定できる。
3	地域特性を活かした技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	福島県産ブランド清酒の開発	オリジナル酒造好適米「夢の香」を原料とし、かつ時代のニーズにあった酒質の製造手法を確立することで福島県産ブランドとしても販売できる清酒を開発、販売すること。	濃厚で味わいのある清酒を作製するために山廃既用優良微生物群から優良スターターを探索し、得られた安定的に優良な醗を使い試験醸造して製造の際の条件や留意点を確立する。	平成14	平成16	B	・妥当な評価である。 ・「時代のニーズ」に合致しているか否かの消費者評価とブランド戦略がカギとなっている。 ・県産業の更なる発展のためにも、新酒用酵母の開発は興味深いと考えます。
4	地域特性を活かした技術開発	ニーズ対応型研究開発事業	伝統産業における製造技術の開発と新商品の開発	各種材料を大塚相馬焼の素地(きじ)・釉薬に添加してその強度向上を図るとともに、その強化素材を利用して割烹用食器をデザイン開発し、販売量の拡大を目指す。	現在使用されている大塚坏土ならびに各種添加剤について元素分析を行い、素地強度向上のため配合組成を検討し、釉薬の焼成による呈色や貫入の発現などから配合組成を確立する。	平成14	平成16	A	・学校給食用などには使えないか？。 ・新商品の開発には「スタイル」のコンセプトやデザインなど、市場を意識して専門家の協力が必要と考えられる。